

「福島差別」論をめぐるって

菊池誠

大阪大学サイバーメディアセンター

今日の内容

- ① 自己紹介と露骨な自己宣伝
- ② 福島差別について少し
- ③ 本の感想など
- ④ 甲状腺検査について語ろう

自己紹介

- 物理学者 (専門は生物物理学)
 - 原子力・放射線・医学は専門ではありません
- エア御用学者 (御用学者 wiki)
- "脱被曝派" を批判するかたわら、リベラル勢力への苦言も呈するので、ネトウヨが喜んで取り沙汰する物理学者 (本書・池田)
- 「放射線について伝える」「放射能デマ批判」を続けてきた

ブログ (kikulog) からの抜粋

差別関連

- 2011/04/19 放射能差別を許してはならない
のだから
- 2011/08/06 フクシマと書かない
- 2011/08/12 大文字と松
- 2011/08/27 放射能不安と対話
- 2011/08/23 野呂美加さんと放射能対策
- 2012/01/13 フクシマとは書かないし、311は
原発事故のことじゃない [kikulog621]

本書に関係すること

- 2011/04/21 CI38 は誤検出
- 2011/04/25 学校の放射線量についての「暫定的考えかた」について考えた
- 2011/05/09 再起動
- 2012/10/26 被曝量を表すいろいろな線量 [kikulog627]
- 2013/10/23 年間 1mSv とか 20mSv とかについて [kikulog635]
- 2013/11/19 空間線量とか個人線量とか、何を測っているのかな [kikulog 638]

いちから聞きたい放射線のほんとう

菊池誠 × 小峰公子
物理学者 ミュージシャン



いちから聞きたい 放射線のほんとう

いま知っておきたい22の話

絵とマンガ
おかざき真里

これ中学校の教科書にした方がいいよ。
ニッポンの場合。マジで。いやホント。

——しりあがり寿

筑摩書房 定価 (本体価格 1400円+税)

2014年3月刊行 (小峰公子・おかざき真里と共著)

- 立場を越えて知っておきたい知識をまとめた「日本でいちばん分かりやすい」放射線の本
- 科学を超えた問題にも踏み込んでいる
 - ぜひお読みください

「いちから」は差別をどう扱ったか

5 母親も、将来母親になる人も

- 小峰「原発事故以降、子どもを産むことについて不安を持っている人もたくさんいると思います」
 - 菊池「それはぜんぜん心配ないよ」
-
- 小峰「妊娠中の被ばくと、放射線による不妊と、それから遺伝のこと。その不安は大きいと思う」
 - 菊池「こういう話はどれもすぐに差別と結びつくから、注意深く話さなくてはならないんだけど」

- 菊池 「ただ、これもとても慎重に話さなくてはならないんだけど、特別な理由がなくても**先天的な障害を持つこどもは生まれる**じゃないですか」

- 小峰 「**被ばくが原因で障害が出る可能性はゼロ**と考えていいということですね。先天的な障害はゼロではないんだけど」
- 菊池 「この問題は**差別に結びつきやすい**から、とりわけ気をつけなくちゃならないのに、無神経な報道があったりして悲しくなるね」

遺傳的影響

- 菊池「原爆の被爆二世の調査があつて、子どもへの影響は見られていないよ」
- 小峰「不安つて、理屈じゃないところがあるから、頭でわかつてても、どうにもならなかつたりする。それでも、こういう科学的なデータは頭に入れておきたいな」

- 「私たちは子どもを産めますか」という中高生の不安に対して、正面から答えた本は「いちから」と「知ろうとすること。」(早野・糸井)だけだと思う。(石戸「リスクと生きる、死者と生きる」でも取り上げたそうです)
- 「差別」の観点からも重要なので、きちんと取り上げるべき問題

子どもたちの将来への不安を解消するのは大人の義務

- 大人は「福島で暮らし、子どもを産み育てることは、他の地域となんら変わらない」ことをはっきりと伝えなくてはならない

差別について

福島差別はいつからあるのか



AERA 2011年3月28日号



AERA

Asahi Shimbun Extra Report and Analysis
2011.3/28 Vol.24 No.13
©2011 Asahi Shimbun Publications Inc.
【アエラ】とはウチン語で「時代」を意味します。

原発が爆発した

核	東京に放射能がくる	
	最悪なら「チェルノブイリ」/心配なのはヨウ素/東大研究室は換気扇止める……………6	
原発難民	脱出者怒りの告白「被曝の説明一切なし」 ……………12	
組織	「東京電力」コントロール失った組織 ……………17	
情報	放射能拡散予測 IAEAには見せて国民には「隠蔽」 ……………20	
知識	被曝したらどうしたらいい？ 放射能詳細Q&A20	
	水洗いで落ちる？雨なぜ危険？安定ヨウ素剤はなぜ効くの？被曝と汚染の違いは？……………22	
心理	「放射能疎開」が始まった ……………26	
立地	全54基「原発列島」マップ ……………28	
経済	原発恐慌と日本経済破綻 ……………30	
	日本経済は壊滅「震災増税」が始まる……………32	

「東日本大震災救援募金」を受け付けます。

郵便振替 「朝日新聞厚生文化事業団」(00910-9-14990) / 現金書留 〒104-9011 朝日新聞厚生文化事業団「東日本大震災救援募金係」(03-5540-7446) / 銀行振り込み 三井住友銀行新橋支店(店番 216)普通 2133184【口座名】朝日新聞厚生文化事業団災害口

※郵便振替、現金書留は、「東日本大震災救援募金」と明記してください。1千円以上の寄託

東京中心主義は裏返せば福島差別

菊池ブログ (2011/4/19)

- 放射能差別の原因の一部は、放射線や放射能に対する知識が足りないことによるのでしょう。
- 他方、よく指摘されているように、被曝を「穢れ」の一種とみなす人たちもいるのかもしれない。それによる差別は、科学知識では解消しないのでしょう。
- 念のために言うと、放射能差別が許されないのは「放射能は感染しない」からではなく、「差別は許されないから」です。

過去に学ばないこと

原爆被爆者差別・被爆二世差別・水俣病差別など
と同じことが今また繰り返されている

- 福島では被曝による健康影響はないと考えられている (被曝量は十分に少ない)
- 「健康影響がないから差別してはならない」「科学的に誤っているから差別してはならない」という論理は危険 → (本書・清水)
 - 原爆被爆者には健康影響が出ているが、差別は許されない

福島差別の事例 (本書・松本、など)

- 入居拒否 (本書・番場)
- 葬列デモ (宗教者、大学関係者も関与)
- いじめ (教育関係者も)
- 駅伝を誹謗中傷 (山本太郎、岩上安身)
- 6国清掃活動の中傷 (活動家が子どもたちにつきまとうなどの妨害活動も)

岩上安身 Twitter

それからお待ちせしました。この二週間あまり、議論にもなっていた、福島の新生児の中から、先天的な異常を抱えて生まれて来たケースについてスペシャルリポート&インタビューします。**スクープです!!** 賛否はあるでしょうが、勇気あるカムアウトした当事者には温かいエールをお送りください。(2011/12/4)

多くのジャーナリストが**正義**の名のもとに**福島差別**を行ってきた

デマもまた差別を生む

放射線の新しいリスクはない、福島県一帯周辺の
 地域、福島県内でも被害が深刻な内子、岩手
 道の外側でも、子どもの健康被害は不安定
 であるが注目すべき点はない、しかし健康被害の
 放射線の被害に自分らの子どもが巻き
 込まれたら不安な気持ちで、できることは
 何かあるか。

原発50キロ 福島郡山は今

福島県郡山市の市街地は、福島第一原子力発電所から約50キロ離れた場所にある。しかし、この地域には、放射能汚染のリスクが依然として高まっている。郡山市の保健所では、子どもの健康被害に関する相談が相次いでいる。特に、鼻血、下痢、倦怠感などの症状を訴える子どもが増えている。しかし、放射線の被害とこれらの症状の関係は、依然として不明な点が多い。

子に体調異変じわり

郡山市の保健所では、子どもの健康被害に関する相談が相次いでいる。特に、鼻血、下痢、倦怠感などの症状を訴える子どもが増えている。しかし、放射線の被害とこれらの症状の関係は、依然として不明な点が多い。

放射線と関係不明

郡山市の保健所では、子どもの健康被害に関する相談が相次いでいる。特に、鼻血、下痢、倦怠感などの症状を訴える子どもが増えている。しかし、放射線の被害とこれらの症状の関係は、依然として不明な点が多い。

大量の鼻血、下痢、倦怠感…

郡山市の保健所では、子どもの健康被害に関する相談が相次いでいる。特に、鼻血、下痢、倦怠感などの症状を訴える子どもが増えている。しかし、放射線の被害とこれらの症状の関係は、依然として不明な点が多い。

郡山市の保健所では、子どもの健康被害に関する相談が相次いでいる。特に、鼻血、下痢、倦怠感などの症状を訴える子どもが増えている。しかし、放射線の被害とこれらの症状の関係は、依然として不明な点が多い。

- 「安心して外遊びできない福島の子どもたち」「福島は高線量で汚染されていて住めない」など差別的クリシェは今もいたるところで見られる。(本書・清水)
 - 特に保養支援・自主避難支援関連に多い(マスコミにもよく見られる何も考えていないクリシェ)
- デマや不安を煽る表現は差別につながる

本の感想

- 第三章: 科学解説 (早野・野口・児玉) はすばらしい
 - 早野のデータがまとまっているのは便利
 - 被曝の観点からは、福島で暮らすことにはなんら心配ないことが明確に述べられている
 - 野口・児玉の解説もこれだけまとめたものは書籍としてはたぶんない

野口

イデオロギーや立場に囚われた人は信用できない

- 第四章: 甲状腺がんの解説 (児玉) もすばらしい
 - これだけまとめた解説は書籍としてはほかにない
 - ただし、高野説に肩入れしすぎると説得力が下がる

- 第五章: 現状の説明 (開沼) もよくまとまっている
 - 「廃炉図鑑」へのアップデートとしての意義
- 小コラムは短い
 - **メディアの問題**を取り上げた大森のコラムは短すぎる。各種メディアが福島差別に加担したことは明らかなので、これだけでもまとまった記事がほしい
 - 一ノ瀬のコラムは必読

- **問題は第一章と第二章**
 - 差別事例のまとめ (松本) は有用
 - これは反原発左翼の自己批判のための本なのだろうか?
- **この本は誰に向かって書かれたものか**
 - 福島県外在住反原発左翼向けの本で済ますには第三章以降がもったいない
 - 読者を狭めている。差別に左右や反原発・原発推進の区別はない
 - 福島に暮らす人たちへのポジティブなメッセージになっているだろうか
 - 福島に暮らす人たちは何を知りたいだろうか

全体の問題

- 「しあわせ」とは誰にとってのものでなくてはならないか
 - 現在福島に暮らす人たちが
 - 自主避難者
 - 両者の利害はおうおうにして対立する (清水)。それぞれの判断と選択を尊重することは本当にできているのか・できるのか。問題提起にも至っていないかもしれない
- これは「差別論」なのか
 - 差別は科学で解決できるか
 - いささか楽観的すぎる (本書・越智、菊池ブログ参照)
 - 差別問題について、もっと突っ込んだ議論が必要

甲状腺がん問題を語ろう

県民健康調査の目的

- 「被ばくと健康被害の関係を解明する」といった書き方にはなっていない
- 重点は「県民の健康を守ること」のほうに置かれています。

(清水)

先行検査中間とりまとめ (2016/3)

- 罹患統計などから推定される有病数に比べて**数十倍のオーダーで多い甲状腺がん**が発見されている
- 将来的に臨床診断されたり、死に結びついたりすることのないがんを多数診断している可能性が指摘されている

(続き)

- 放射線の影響とは考えにくいと評価する。但し、放射線の影響の可能性は小さいとはいえ現段階ではまだ完全には否定できず、影響評価のためには長期にわたる情報の集積が不可欠であるため、検査を受けることによる不利益についても丁寧に説明しながら、今後も甲状腺検査を継続していくべきである

率直な感想

これではあからさまに疫学優先じゃん!

ヘルシンキ宣言

人間を対象とする医学研究の倫理的原則

- 7. 医学研究はすべての被験者に対する配慮を推進かつ保証し、その**健康と権利**を擁護するための倫理基準に従わなければならない。
- 8. 医学研究の主な目的は新しい知識を得ることであるが、この目標は**個々の被験者の権利および利益**に優先することがあってはならない。

甲状腺検査のデメリット

- 生涯にわたって発症しない癌を発見して手術してしまい、甲状腺ホルモン剤を飲み続けなくてはならなくなる可能性もある
 - 既に約 200 人の癌が発見され、約 150 人が手術を受けた (通常の 100 年分?)
 - 良性腫瘍を手術した事例もある (あきらかな被害)
- 発症する可能性があってもそれが何十年後かはわからない
 - 急ぐ必要がない手術をしてしまう
 - 手術しなくても長期にわたって不安を抱える

甲状腺癌を見つけること自体が害

(続き)

- A2やBなど、本来「異常なし」に含まれる所見も「A1でない」ことによって不安を与える
 - そもそも検診が不安解消の役に立っているかの検証が不十分

いったいこれは誰のための甲状腺検査なのか

「いちから聞きたい」

6 子どもの甲状腺癌のこと

- 小峰 「福島県内の甲状腺検査で甲状腺がんの子どもが何人か見つかりましたが」
- 菊池 「**ほぼ間違いなく被ばくとは関係ない**よ。甲状腺がんは進行が遅いこともあって、これまで特に検査はしていなかったんだ。だから、検査をしたらどのくらいの割合で見つかるのか、データがなかった」

- 小峰「でも、被ばくと関係あってもなくても、がんが見つかったら不安ですよね」
- 菊池「むしろ今は、がんを発見するためのテストが優秀すぎるので、すぐに治療しないでいいがんまで発見してしまい、検査に伴うリスクのほうが大きいと指摘する人もいる」

2014/3 で既にこの程度の認識はあった (おそらく本に書かれたのはこれが最初)

本文より

他地域での甲状腺検査について

たしかに疫学調査の範囲を広げれば統計の精度が高まって科学的な結論に近くことができるでしょう。しかしそれによってより多くの子どもたちがつらい検査を受け、もしかしたら受けなくてもよかったかもしれない治療も受けることになるとしたら、それは「被害者」を大幅に増やすことになりかねません(清水)

被害者とは**検診の被害者**。ここからの結論はひとつ

問題点

- 被ばく影響でさえなければ**安心**なのか
 - 県民健康調査の**成功** (清水) とは何か
 - 被ばく影響よりも検診の害がはるかに大きい
- 他地域では許されない甲状腺検査が、なぜ福島では許されると考えるのか
 - せっかく大量被ばくを免れた子どもたちが、**甲状腺検診の被害**にあっている
- 福島でだけ甲状腺検査を行うという考え方が**福島差別**である

高野徹 (大阪大学) 第9回甲状腺検査評価部会 (2018/1/26)

- 現在の甲状腺検査は**医学倫理を大きく逸脱**している。
- 対象者が参加の是非を判断するに十分な情報を与えられ (**インフォームドコンセント**)、**自由意思**に基づいて参加を決定できる体制になっていることが必須
- 本調査では被験者は甲状腺超音波検査の**メリット・デメリット**の理解が不十分なまま受診し、かつ学校検診という形で**強制力**を伴って実施されている。
- これは**子供の人権問題**である。

甲状腺検診問題は

- 医療倫理
- 子どもの人権
- 福島差別

の観点で問題がある

被ばく影響で甲状腺がんがわずかに増えるかもしれないという予想は、無症状者への甲状腺マスキングを正当化しない

- ただし、被曝影響で増えるとは考えられていない

提言

- 甲状腺検査四巡目は中止
 - 少なくとも学校での集団検診はやめる
 - 同じ人的リソースなら検査せずに説明に割いたほうがよい
- 希望者の検診ではインフォームドコンセントの徹底
 - 検査にはメリットがないこと、検査のデメリットとして「生涯にわたって発症しない癌を発見して手術してしまい、甲状腺ホルモン剤を飲み続けることになる可能性もある」ことをはっきり伝える必要がある
- 検診で見つけてしまった癌はすべて生涯にわたって補償(三県調査も)

最後に

- 科学的事実を伝えることは安心につながる可能性が高いが、不安は理屈ではないので、万人に通じるわけではない
 - ただし、データのアップデートができていない人をよく見かける
- 「穢れ」概念を祓うには科学とは別のなにかが必要
- 「完全には否定できない」「可能性はゼロではない」という表現は誰も幸せにしない
- 福島に暮らす人と自主避難者の利害対立は建前だけでは解消しない。中間に立つ人が必要